

# 教 師 ノ ー ト

|   |                 |
|---|-----------------|
| 日付  | 2016年 3月 6日     |
| 単元  | マタイの福音書・3       |
| テーマ   | 再臨を喜んで迎えらるる者となる |
| タイトル  | 目をさましていなさい      |
| テキスト  | マタイ25:1～13      |
| 参照箇所  | 使徒1:3～11        |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)  | マタイ25:13        |
| AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)   |                 |
| <b>□導入</b><br>イエスさまは、地上での生涯の後半になると、十字架にかかること、3日めによみがえること、天に戻ってから再びこの地に来られること(再臨)について、弟子たちに譬えをお話しになりました。   |                 |
| <b>□ポイント1 イエスさまは、花婿を出迎える10人の娘のたとえ話をなさいました(1～5節)</b><br>10人の娘のお話です。この10人は、これから結婚式を挙げる、花嫁のお友だちです。ユダヤの結婚式では、夜に、花婿(とその友だち)が、家に花嫁を迎えにやってくるのが習慣です。この10人の娘は、夜に到着する花婿を、ランプをともして迎え、花嫁の家で行なわれる祝宴(パーティ)に案内するお手伝いをするために、花嫁の家に集まっていたのです。<br>10人のうち5人の娘たちは、花嫁の家に、ランプだけ持って来ていました。イエスさまは、この5人を「愚かな娘たち」とおっしゃいました。あとの5人は、それに比べて「賢い娘たち」でした。花嫁の家に来る時に、ランプだけでなく、予備の油を、他の入れ物に入れて持って来ていました。油がなくなると、ランプの火がつかないからです。<br>10人の娘は、花婿が来るのを楽しみに待っていました。しかし、夜になっても、なかなか花婿は現れません。花婿の到着が遅くなったので、娘たちは眠り始めました。   |                 |
| <b>□ポイント2 賢い娘たちは、花婿がいつ来てもいいように用意ができていました(6～12節)</b><br>夜中になって、外で大きな声がしました。「花婿がそろそろ到着しますよ。迎えの役の娘たち、どうぞ出て来てください。」眠っていた娘たちは、飛び起きました。そして、自分のランプを準備しました。ところが、時間がたっていたので、娘たちのランプはみな、火が消えかかっていた。賢い5人の娘たちは、用意していた油を注ぎ足して、ランプの火を整えました。ところが、他の5人は、油がないので困りました。そこで賢い娘たちに頼みました。「火が消えてしまいそうです。これでは花婿を迎えることができません。どうか油を少し私たちに分けてください。」ところが賢い娘たちは答えて言いました。「ごめんなさい。あなたたちに分けてあげるには、油が足りません。お店に行って、買って来るしかないですね。」そこで愚かな娘たちは、急いで油を買いに出かけました。するとその間に、花婿が到着しました。賢い5人の娘たちだけが、花婿を迎えることができました。彼女らが、花婿と一緒に祝宴の部屋に入ると、戸が閉められました。しばらくして油を買いに行っていた娘たちが帰ってきました。「ご主人さま、ご主人さま。どうか戸を開けて、中に入らせてください。」しかし、部屋の中からは「私はあなたがたを知りません」と答えが返ってきました。彼女らは、祝宴の中に入ることができませんでした。 |                 |
| <b>□ポイント3 イエスさまは、「目をさましていなさい」とおっしゃいました(13節)</b><br>イエスさまは、このたとえ話の最後に「だから目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです」とおっしゃいました。<br>このたとえ話で、花婿はイエスさまのことです。迎える10人の娘たちは、私たちクリスチャン(教会)を   |                 |

あらわしています。イエスさまは、十字架にかかり、3日めによみがえった後、天に戻られる時、再びこの地に来られることを、約束なさいました(使徒1:3~11)。その約束どおり、イエスさまは必ず来られます。イエスさまは、ご自身の再臨の時まで、私たちがどのように待つべきかを教えるために、このたとえ話をなさったのです。いつイエスさまが来られるかは、誰も知りません。ですから、イエスさまは、いつ来られても大丈夫なように、いつも「目をさましていなさい」とおっしゃったのです。

□**結論** いつイエスさまが来られても大丈夫なように、準備して待つことが大切です

「目をさましていなさい」とは、私たちクリスチャンは、「いつイエスさまが来られても、喜んでお祝いできるように備え、注意深く用心しておきなさい」という意味です。賢い娘たちは、いつ花婿が来ても大丈夫なように、準備ができていました。いつでも花婿を迎えられるように備え、注意深く用心していたのです。

□**適用** (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

**普段から、イエスさまとよい関係で過ごしましょう!** 私たちにとって「目をさまして待つ」とか「賢い娘たちのようになる」ということは、「イエスさまといつもよい関係でいること」ということができます。私たちは、イエスさまを信じる信仰によって、間違いなく、天国に行きます。だからと言って、いつもイエスさまを悲しませるような生活をしていたら、再臨のとき、喜んでお迎えすることができませんね。普段から、イエスさまと良い関係であれば、突然イエスさまが来られても、困ることはひとつもありません。

1. いつもイエスさまに喜ばれることを考えて行動しよう! 普段、イエスさまを悲しませるようなことばかりしては、堂々とイエスさまに対面できませんね。イエスさまの気持ちに背を向けて過ごしては、再臨のとき、喜んでお迎えできませんね。いつも、「イエスさまが喜ばれることは何か?」を考えましょう。イエスさまのみこころは何か、お祈りしたり、聖書を読んだりして、知るようにしましょう! イエスさまを礼拝すること、賛美すること、感謝すること、お友だちを愛すること、両親に従うことなどは、イエスさまが喜ばれることです。すすんで実践しましょう。

2. もし失敗したときは、素直に悔い改めよう 私たちは、いつもイエスさまに喜ばれる心で「完璧に」過ごすことはできません。ですから、イエスさまのみこころに従えなかったとき、自分中心になってしまったとき、心の中で罪を犯してしまったときは、すぐに悔い改めのお祈りをしましょう。悪いことをしたのに謝らないままにしておくと、よい関係ではいられませんね。イエスさまは、私たちが悔い改めるとき、必ず赦し、よい関係を保ってくださいますから、大丈夫です。再臨のとき、責められることは決してありません。イエスさまは、私たちの心を見ておられます。自分の心を常に注意深く点検し、イエスさまに悪いなあと思うことがあったら、素直にお祈りしましょう。まだ悔い改めていない罪があると感じたら、今すぐお祈りしましょう。

※イエスさまとの関係は、油のように、他の人から分けてもらうことができません。お店で買えるものでもありません。普段から時間をかけ、自分で、イエスさまと個人的に築き上げていくものです。

※昇天から2000年以上たっているので、待ちくたびれて「もう来ないんじゃないか」「来るとしても、まだまだ先のことだろう」と愚かな娘たちのようにならないようにしましょう。いつ来られるかは誰にも分からないので、いつも目を覚ましているようにと言われたのです。